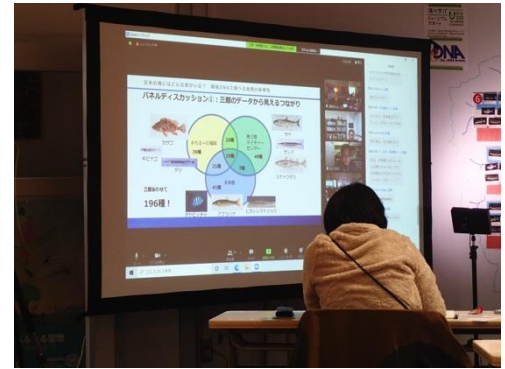




## ☆東京・福岡とリモート通信で交流しよう！

後半のパートでは、東京都の「日本科学未来館」、福岡県の「まもる一む福岡」と、リモート通信機器を使ってのオンライン交流を行いました。それぞれの観測地点で、どんな生きもののDNAが採れたか、地域ごとにどんな違いがあるかを見比べました。

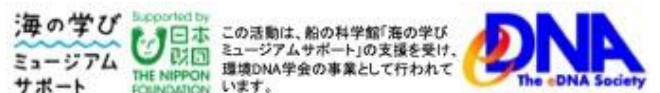
3地域で見つかった環境DNAの数は合計196種類。そのうち、南三陸町と同一種類の魚のDNAが見つかったのは、東京都で7種類、福岡県で20種類。より遠くにある福岡県の方が、南三陸町と同一種類の魚がいるという面白い結果が出ました。これは、日本海を北に流れる対馬海流が、津軽海峡を経由して太平洋側に流れ込み、三陸沿岸を南下する津軽暖流に乗って、いろいろな生きものが流れてくるからと考えられます。



### 【見つかった魚のDNAの数】

調査施設（県名）	各海から出た魚のDNA数	その調査地だけで見つかった魚のDNA数
日本科学未来館（東京都）	88種類	41種類
まもる一む福岡（福岡県）	99種類	39種類
自然環境活用センター（宮城県）	95種類	49種類

## ☆調査で分かったビックリPOINT！



今回の南三陸での分析結果から、エイの仲間「**ドブカスベ**」の環境DNAが出たのですが、この地域にはいないはずの生きものでした。不思議に思った研究員が、結果を見比べるため、地域でよく見られる「**コモンカスベ**」のサンプルを送って調べてもらったのですが…。

ビックリPOINT①「**コモンカスベ**」だと思っていたサンプルは、実は「**ツマリカスベ**」だった！  
 ビックリPOINT②登録されている「**ドブカスベ**」の環境DNAデータが、実は「**コモンカスベ**」の環境DNAだった！（つまり、今回見つかった環境DNAの正体は「**コモンカスベ**」で、「**コモンカスベ**」だと思っていたネイチャーセンターのサンプルは「**ツマリカスベ**」だった）  
 これには研究員のみなさんもビックリしたそうです。

### 【令和3年の予定】

1月23日（土）：京都アイキッズ交流会（オンライン）

去年お世話になった中村大輔先生が指導している京都のエコクラブ「京都アイキッズ」の子ども達と一緒に、リモートで海藻おしば作りをします。ちなみに、京都アイキッズの子ども達の中には、昨年のびわっこ大使交流会で南三陸町に来たメンバーもいるそうです。去年から調査隊に参加している隊員は、見覚えのある子に会えるかも…？みなさん、是非ご参加ください！